

与論島を活性化させるためには

今回、自分の足で与論島まで行き島の中を歩いてみて感じたことは、フェリー乗船時間の長さです。配布資料（町勢要覧）によると、鹿児島新港から与論島までは所要時間が約 20 時間かかるのに対し、沖縄県那覇港からは約 5 時間、那覇新港からだ約 3 時間 40 分程しかかかりません。与論島を活性化させるために、まず交通アクセス方法と料金から考えました。

仮に鹿児島からの出発で考えると、

◆鹿児島新港発与論島着の場合

- ・所要時間：約 20 時間
- ・料 金：28,000 円（鹿児島新港～与論島：14,000 円《2 等客車片道分》）

◆鹿児島空港発与論空港着の場合

- ・所要時間：約 1 時間 30 分
- ・料 金：28,100 円（往復割引料金片道分）

◆那覇空港経由、鹿児島空港発与論島着の場合

- ・所要時間：約 6 時間 30 分
（鹿児島空港～那覇空港：約 1 時間 30 分
那覇港～与論島：約 5 時間）
- ・料 金：55,200 円
（鹿児島空港～那覇空：23,100 円《往復割引料金片道分》
那覇港～与論島：4,500 円《2 等客車片道分》）

沖縄を経由すると、料金はかなり高くなってしまいますが、利便性を考えると沖縄とセットにして旅行した方が、旅行内容がより一層充実し料金のバランスもとりやすくなります。所要時間を見ても、ただ単に飛行機で直接与論島に来るよりも、一旦沖縄に滞在し、そこからフェリーを使うことで、それまでフェリーに乗ったことのない人にはいい思い出になります。また、与論島の観光の目玉と言えるものは、きれいな海岸やマリンスポーツと言ったものであり、夏場にマリンスポーツを楽しむ観光客を呼び込むようにするのはもちろんですが、独特の釉薬を用いた焼き物を作る窯元や、夜光貝といった貝を加工して販売する貝工房など、その土地にしかない工芸品をアピールして観光客を誘致していくのも、地道ではあっても効果があると思います。

けれど、観光を対象として売り込むというよりは、中高生を対象に修学旅行先として売り込む方が妥当かもしれません。沖縄と歴史的にも繋がりのある与論島を、沖縄を巡った後で観光することで沖縄返還に携わった人々の思いや大

変さをわかってもらい、少しでも南九州、特に離島に関して興味を持ってもらおうという狙いです。私自身、与論島に来て講義を受けるまでは、沖縄本土復帰にこぎつけるまでに、海上でお互いを励ましあったということを知りませんでした。そうした教科書にも載っていないような大切な事実を伝えることが、修学旅行の目的の一つでもあります。だからこそ修学旅行で一度は与論島に来てみるべきだと実感しました。

冬場に行われる、サトウキビ収穫黒糖作り体験や窯元での陶芸教室など、体験教室はたくさん開かれていますので、それと併用して推し進めて、修学旅行先の学校を誘致していければいいと思います。

農業面に関しては、与論島は亜熱帯に属するため珍しい果物が栽培されています。アテモヤは特に聞いたことがない人が大半だと思います。配布資料でも与論と沖縄、和歌山県の一部でしか栽培されていない果物なので、希少価値はとても高いです。なので、特に東京や大阪といった大都市を中心に、物産展が行われれば目玉商品の一つとして持っていき、知名度を上げながら大々的に売り込んでいくべきです。また、ドラゴンフルーツについても同様ですが、農薬を使用せずに栽培できることを全面に押し出して売り込んでいくべきです。また、島からの輸送では輸送費がかかりすぎてしまうため、市場価格がどうしても高めになってしまいますが、希少価値の高い果物だという印象があるため値段ではあまり敬遠されにくいです。むしろ希少価値が高いからこそ、与論の名前をブランドとして売り出していけるとと思います。南国のフルーツを栽培している都道府県はいくつかありますが、特にマンゴーは宮崎県産のものが有名になっていますが、与論では無加温で栽培できるので、温度管理などのコストがかかりません。普通ならそういったコストが嵩みますが、そのコストを輸送費にあてていると思えば、価格での勝負に負けることはありません。自然の温度で栽培できるということをブランドとして売り込めるのも、強みの一つだと思います。ですから、他県にはない独特の環境で育てた果物を押ししていくべきです。